

(様式2)

# 平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那高等学校

学校番号 49

## I 自己評価

1 学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇SSH (スーパーサイエンスハイスクール)	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望では理系が50.0%、文系が33.3%となっており、理系人材の育成のために本校SSHが果たすべき役割が大きいと考えられる。科学への関心を高める行事についても「適当である」の回答が64.8%と概ね講評であるが、「増やした方がよい」の30.3%の意見にも応えうる事業内容を工夫していくことも望まれる。</li> <li>・本校理数科を志望する生徒の多くが、SSH指定校であったことを選択の理由としており「恵那高校=SSH」という認識が地域の中学生に定着した。平成16年度のSSH指定から13年間、小中学校を対象とした講座や広報活動、地域の企業、研究所と連携した事業を行っており、今後も、他校にない系統的な課題研究や論理的思考力の育成などを発展させ、科学技術系人材の育成に力を入れていく。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇課題研究による問題発見能力と科学的探究力の育成</li> <li>◇論理的思考力育成プログラムによる論理的思考力と表現力の育成</li> <li>◇社会や地域におけるフィールドワークによる社会性の育成</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理数科部内にSSH実行委員会を置く。</li> <li>・SSH実行委員会は必要に応じて、各分掌、教科、学年と連携する。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 課題研究の指導計画、方法の改善</li> <li>(2) 学校設定科目の指導内容の改善</li> <li>(3) 外部機関と連携した事業の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒意識調査</li> <li>(2) 連携先・保護者・教員へのアンケート</li> <li>(3) 運営指導委員会による指導</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>①課題研究を通して問題発見能力を育み論理的思考力と探究力・実行力を身に付けさせる。</li> <li>②三角ロジック及び英語による表現の経験を積み重ね、論理的思考力と表現力を身に付けさせる。</li> <li>③探究型学習の繰り返しで、主体的・協働的に問題を解決できる力を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「課題研究」による問題発見能力やの育成</li> <li>②「論理的思考育成プログラム」による客観性と論理性の育成</li> <li>③「地域や海外の学校との連携」による社会観や国際感覚、言語能力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A (B) C D</li> <li>A (B) C D</li> <li>A (B) C D</li> </ul>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題発見を重視した主体的なテーマ設定へと生徒を導く、系統的な指導計画を策定し実践できた。</li> <li>○論理的構造の基本である「三角ロジック」の、探究活動と通常授業への応用が広がった。</li> <li>▲校外と連携した活動を行わせることで、社会を知り自ら貢献しようとする意欲を向上させる工夫を取り入れる。</li> <li>▲課題研究の指導内容と評価法については「身に付けさせたい力」について検討を続け、同じ質の指導ができるための工夫を試行していく。</li> <li>▲SSH事業を進める上で、教育課程や理数以外の教科との関係をより明確にする必要がある。</li> <li>▲地域における基幹校としてSSHが果たす役割を明確にし、一層小中学校や地域の機関と連携を進めていく必要がある。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の観点から、事業に取り組んでいく。</li> <li>①目的：SSH事業の目的を踏まえて、どのような人材を育成するか。また、高校3年間でどのような資質・能力を育成するのか。</li> <li>②目標：目的を踏まえて、指定期間中に達成すべき具体的な目標は何か。</li> <li>③研究開発の内容・実施方法・検証評価：仮説を踏まえて、具体的にどのような実践を行うか。</li> <li>・SSH連続指定4期校として、地域はもちろん全国にも、特色ある恵那高校の教育実践の成果を公開し普及していく必要がある。このための準備と取組を始めていく。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月24日

### 【意見・要望・評価等】

- 本日の発表を聞いていて、それぞれの発表の内容が豊富でとても楽しかった。また、質問が積極的に出されるのがよい。質疑応答を通して、内容が深められると思う。その一方で、声が小さい発表もあった。もっと堂々と話してほしい。
- 科内発表は皆一生懸命やっていて素晴らしい。将来的にこのようなプレゼンテーション能力は様々な場面で求められることが予想される。そういう意味でも大変効果がある取組だと思う。
- 発表を聞いている側の真剣な様子を見ると恵那高生だなと感じる。生徒の力を高める方法をとってもらっている。その一方で、生徒や先生に負担がかかっているのが心配である。
- SSHも14年目ということで、多くの卒業生を輩出している。高校生の頃の夢を実現させて大きな成果を出し、将来はノーベル賞をとるような生徒が出ることを期待している。